

## 体感治安を向上させる取組について

## 体感治安を向上させる取組全般について

伊藤 久美子	<p>堺市に限った事ではありませんが、体感治安を悪化させる要因は多々あります。過去から見れば警察の協力により犯罪件数は大幅に減少しているとは思いますが、犯罪の巧妙化・組織化・デジタル化は進み、犯罪数は増え、警察もいろんな事象・事案に対処せねばならない状態になっているとは思いますが。</p> <p>治安を守るためには十二分な予算措置と更なる対策の強化・条例化が必要不可欠だと思います。</p> <p>関西、大阪府全体が連携をとって体感治安を向上させる取り組みを強化させることを強く要望します。</p>
太田 佳世	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜、道が暗いので明るくして欲しい。 街灯が少なく、街灯の背が高くライトも暗いので、薄暗い雰囲気のところが多い。</li> <li>・ 日中と夜間のパトロールの強化</li> <li>・ 地域の人達の見守り活動 こども会や小学校や中学校のPTAの見守り活動など私の地域ではコロナ前は活発だったが、コロナ以降はその活動が減ったり、役員の負担感が増し、役員を引き受けることに抵抗を示す人が増えたため、負担感軽減のために活動が減ったりした。ウォーキングや散歩がてらできる見守り活動とかがあれば良いなと思う。</li> <li>・ 自転車につける『見守り中』のプレート(以前、PTAで配付していた)はあるが、子育て世代の保護者は平日夕方など多くの人が車でこどもの習い事などの送迎することが多いので、車につけるステッカーやプレートなどを作り、それを車に貼ることで犯罪抑止や地域の安心安全に繋がるようにならないか…</li> <li>・ 深井の駅周辺は昔はお酒を提供するお店が多くあったことから、その当時のイメージから治安が悪いと感じるのでしょうか… 現在は 高齢者の方が増えたことと若い世代の就労率が高くなったことからか、平日はお昼の明るい時間帯でも人通りが少ないと感じることが多いです。静かな住宅街としては良いと思いますが、少し人気がなく寂しい感じがします。</li> </ul>
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長年の要望がついに実現し、令和3年に中堺警察署ができたことで、犯罪現場への到着時間は軽減されたと思うが、警察設置により犯罪が減ったという感覚はあまりない。</li> <li>・ 地域の人が警察と一緒に、犯罪のあったところを教えてもらいながら夜回りするなどのパトロール活動も実施している。とても良い取組なので、他の地域でもしていないところはやってみてほしい。</li> <li>・ 犯罪が頻繁に起きている場所や、時間帯、小・中学生や女性などがどういった犯罪被害に遭っているかなどをきちんと分析し、有効な施策を実施してほしい。</li> </ul>

澤本 美奈子	<p>今までのように、安まちメールを送りながら、何もないうきも注意を呼び掛けるメールや気になることがあるときは迷わず連絡くださいというお知らせメールを定期的を送る。</p>
静 又三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 警察のせいではないが、ここ最近中区で犯罪の大きさが目立つように思う。</li> <li>・ 中学生や高校生については中堺警察ができ、警察の目が近くなったことで非行に走るようなことは減っていると感じる。</li> <li>・ やはり警察が近くにいると治安は良くなると思う。</li> <li>・ 精華高校と泉丘東中学校の間など道幅の狭い道で、雨の日に傘をさして自転車に乗っている学生がおり、非常に危ない。交通事故が多発する地域を安全だとは思えないので、交通マナーなどもしっかり教えてほしい。</li> <li>・ シルバー人材センターや警察などの人員とも協力し、登下校の時間帯など危険個所に重点的に立つのが子どもへの街頭犯罪を防止するのに良いと思う。</li> </ul>
中辻 さつ子	<p>体感治安については、近年国際的に不安な事案が増えたように感じます。何が起こってもおかしくはありませんが、絶対に戦争だけはしてはなりません。法律と話し合いで安心な国を築いてほしいです。</p> <p>地域においては、コロナ禍で近隣の関係が希薄になってしまったと思います。今でも密な関係であった地域社会も隣の方が亡くなっても知らないなど寂しい限りです。一人ひとは地域の孤独な方に心を寄せ、話かけて安心して過ごしてもらえようようにしようと声掛けをしています。</p>
藤田 浩子	<p>若者や子育て世代が、中区は安心できると思える為には、警察の方々がいつも見守ってくれているという安心感が重要だと思います。</p> <p>小・中学校が荒れていると子育て世代は不安です。ゲームセンターや夜の見回りも大切だと思いますが、昼間の学校内にも警察（もしくは警察OB）が日常的に見回ってくれていると安心して学校に通わせられます。スクールポリス的な方がいるということがPRされることで、中区は安心して住める、という思いに繋がるのではないのでしょうか。</p>

<p>松居 勇</p>	<p>「大阪は犯罪の多いまち」「なんだか物騒な世の中」というネガティブイメージの払しょくはなかなか難しいような気がするので、実は犯罪が減っているということを周知するよりも、「守られている」「このまちは犯罪が減るように努力している」と“体感”できるような機会を増やす方向はどうでしょうか。そのために、いかに目立つことをするのかという観点から、いくつかアイデアを出しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスコットキャラクターをつくる 治安を守るためのシンボリックなキャラクターをつくり、いたるところに登場させてみるのはどうでしょうか。せっかく中堺警察署があるので、例えばですがハニワ部長のように、ハニワ署長みたいなのをつくり防犯イベントで実際に（着ぐるみと）会えるようにするとか。 （参考）堺警察署マスコットキャラクター「さかいまもる」 <a href="http://www.info.police.pref.osaka.jp/ps/sakai/1002052/1001114.html">http://www.info.police.pref.osaka.jp/ps/sakai/1002052/1001114.html</a></li> <li>・ 「こども110番の家」の活用 既存の制度だが、こども110番の家に登録している家庭や商店等と連携する。いざという時に駆け込める（助けてくれる）場所があるということを区民に認知してもらう。 …子ども（小学校に入学してすぐの子どもなど）を対象に、校区内の110番の家をめぐるようなスタンプラリーイベントを開催する（学生が企画協力）。 …110番の家に登録している家庭や商店等を地図上にマッピングして、中区が運用している地域SNS「ピアツザ」でいつでも見られるようにする。 （参考）堺市「こども110番の家」 <a href="https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/hughug/kosodatekankyo/sonota/kosodatesien_katsudo/dekirukoto/kodomo110.html">https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/hughug/kosodatekankyo/sonota/kosodatesien_katsudo/dekirukoto/kodomo110.html</a></li> </ul>
<p>森田 裕之</p>	<p>治安が良くなると、住んでいる人が離れにくくなるという効果はあるが、実際に住んでいない人にはなかなか伝わらないので、転入が促進される効果はあまりないと思う。今回の取組は人口減少を食い止めるため、ということなので人口減少と体感治安の向上の関係性をきちんと整理しておくべきだと思う。</p>

<p>山本 章夫</p>	<p>「風が吹いたら桶屋が儲かる」（防犯が改善されると人口が増える）という論理を用いながらの政策立案に疑問を持ちます。当然、地域（中区）で生起する様々な事象は有機的に相互に関連しており、全体として一体の動きを持つことは理解できますが、数値エビデンスを論拠に因果関係を説明し政策を立案することには「危険」が伴います。それは、因果関係には「見せかけの関係」が時として存在し、実は「第3の変数」（交絡変数）が隠れており、この変数が鍵となって因果関係を成立させていることがあるからです。ですので、今回の政策「体感治安を向上させる」は、何か（人口増加）を目指すために実施すると位置づけるのではなく、純粋に「治安の向上」として位置づけ、理由を説明し実施することが分かりやすく、また、後日の政策効果検証においても手続きが簡単になると考えます。</p> <p>「人口減少対策」は頂いた資料（今後住みたいと思う場所について重視する事項）が示すように多岐にわたる事由があり、これに対する総合的な政策が必要であることは明らかであると言えます。また、子育て世帯の住環境で重要と考える項目でも多様な事項が示されており、数値が一番多い項目だけにターゲットを絞る政策を立案する根拠とすることは、上述の「交絡変数」の事由も含め得策でないと言えます。一方、「体感治安を向上させる」の言葉と内容に関してですが、「体感治安」という言葉は一般的でなく大変分かりづらいと言えます。また、内容を「うがった考え方」から見ますと、「体感治安」を向上させれば良く、「実態治安」は二の次である、とも捉えられます。このように考えますと、「体感」という用語を政策名称に使用するのでなく、「パトロール強化による地域治安の向上」などとし、学生を含む多くの関係者がパトロールに参画することにより治安を向上させる、で良いのではないのでしょうか。そしてその結果（波及効果）として、子育て世代の移住が促進され、ひいては人口が増加することも期待される、が穏当な説明内容になると考えます。</p>
<p>小倉 弓果</p>	<p>資料を見て、すでにさまざまな取り組みをされているなあという印象だった。小学生の下校時間に高齢の男性が旗を持って見守り運動をしているのはよく見るので、高齢世帯のほうがそういった活動を身近に感じていて、治安も比較的良いと感じているのではと思った。若者や親世代の方にも取り組みに参加してもらいやすい方法として、中区わんわんパトロール事業（必ずする散歩と同時に行える）、夜間まち歩き（頻繁でなければ）が良いと思う。</p>

<p>桂 恵輔</p>	<p>犯罪認知件数は下がっていて実際の治安は良くなっているが、市民の人がそれを知らないことが体感治安が低い原因だと思う。 昔の犯罪数が多かった時のイメージのまま。 安全になってきていることをもっと広報しないといけない。 防犯ブザーの配布などと一緒にこんなに犯罪減っているというチラシを配る、広報紙の折込チラシに入れる、区役所の窓口で配るなどはどうか。</p>
<p>高田 彩加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治安が悪いと感じるのは、犯罪の数だけでなく、地域の環境(放置自転車、落書き、ごみの出し方など)も関係していると思うので、通学時の見守り活動と並行してゴミ拾いを行ったり、自宅の庭や周辺の清掃を促す啓発活動を行ったりすると良いのではないかと。</li> <li>・ 住宅への侵入等防止のため、玄関前にセンサーライトをつけることを促す、センサーライト設置のための補助金を出すなど、各家庭の防犯対策に力を入れるような取り組みをしてはどうか。</li> <li>・ 道路からの見通しが悪い(植栽が多い、木で死角があるなど)の公園は、植栽の整備により見通しを良くすることで、犯罪の抑止効果となり、より安全に遊べると思う。</li> <li>・ 小学生等に対しては防犯ブザーの配布などがあると思うが、女性の犯罪被害が多いことから、子どもだけでなく、大人の女性でも使用しやすい防犯グッズなどを作成し、イベントなどで配布してはどうか。(防犯グッズを大学生でデザインしてみるなどもいいかもしれない。)</li> <li>・ 現在「夜間まち歩き」というものが実施されているようだが、それに加えて、実際に歩いてみて分かったことなどを参加者が防犯マップとしてまとめ、地域に配布することにより、さらに多くの住民と防犯意識を共有できるのではないかと。また、同様の事業を、小学生や中学生が昼間に先生や警察の方々と行い、通学路で危険なところ、子ども110番の場所などを把握するのもよいと思う。</li> <li>・ 安まちメールの他にも、安まちアプリというものがあり、パトロール活動に応じてポイントが付与されるというサービスがあるそうなので、それを活用して、ポイントを集めるように促すキャンペーン等を協働で行ってはどうか。</li> </ul>

<p>陳代 修平</p>	<p>治安という言葉はかなり広く、また（買い物の利便性などは車などで最悪なんかになる一方で）治安が悪いことは生活に直結することなので、治安を重視するという結果が一位になるのは必然だと思います。</p> <p>体感治安を良くするためには、自分の周りで起きている犯罪の絶対数が少なくなること、ニュースで取り上げられるような重大事案を限りなく0に近づけることなど犯罪の絶対数を減らす取組（ここは警察の領域だと思います）のほか、安全安心を守る取組が目に見える範囲で行われていることが大事だと思います。</p> <p>今回、大学生はこの後者の部分に関わることができるのかなと思います。</p> <p>【取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桃山学院大学の「桃パート」のように地域と連携した見守り活動の実施</li> <li>・ ボランティアによる子ども見守り隊の実施（埼玉県東松山市のボランティア活動市民の会が実施）</li> <li>・ 大阪府警と連携し、駅街頭での痴漢防止などの防犯キャンペーンに学生が参加</li> </ul> <p>加えて、地域の方々が防犯の取り組みがたくさん行われているということを「あまり知らない」ということも体感治安が上がらない原因の1つだと思うので、そういった取組をしっかりと発信していくことも大切だと思います。</p> <p>【取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防犯情報を発信するSNSを区役所で作って区民の方々にお知らせする（その広報部分で大学生が協力する）</li> <li>・ 防犯取組の見学会（学校参観のような）などの実施</li> </ul>
<p>山口 睦季</p>	<p>有意義な活動が様々考えられると思いますが、まずは「堺市・堺市中区の治安の現状」について周知するのも、住民の体感治安向上の基盤になるかと思います。治安が良くなかった頃のイメージが広く定着してしまっている状況を変えるには、「そうか、思っていたより安全な街なんだな。」という安心感を持つきっかけを作ることが重要で、それを実現するためには数値的なデータを知っていただくことも、比較的早くとれる手段の一つかと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区の防犯に関するマスコットキャラクターをつくって、（例えば区で行なわれるイベントに登場したり広報にイラストとして載せたり）区民が目にする機会を多く設け、区として防犯に力を入れているというイメージを広く浸透させる</li> <li>・ こどもが登下校する時間に、交差点や大きい道路など交通事故が起こりそうな場所・人通りの少ない道や街灯の少ない場所などにボランティアが立ち、こどもたちの安全・安心な下校を見守る</li> <li>・ 区民に防犯ブザーを配るイベントを行なう。この際警察の方にもご協力いただき一緒に配っていただくと、「警察に守ってもらえている」という安心感が得られるのではないか</li> <li>・ 茂みが多い公園は植木を剪定したり、暗い道では街頭を増やしたり光をより明るくしたりする</li> <li>・ 防災無線で防犯を啓発するアナウンスを定刻放送する</li> </ul>

脇田 利奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通安全について 中百舌鳥駅から中百舌鳥小学校までの道で、危険な運転をしている車をよく見かける。自身も事故にあうのではないかと感じるくらいなので、子供が事故にあわないか非常に不安を感じる。 ➡警察官を配置する / 走行速度を下げる路面デザインを施す</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犯罪などについて 私自身は特に不安を感じたことはないが、不安を感じている住民の方は多い（資料より） ➡（子供・子供を持つ親向けの対策） 通学路に安心できるパトロール体制を作り、いざというときにどのような行動をとればいいのか、詳しく説明する教室を開く</li> </ul>

中区青色防犯パトロール活動拡充事業（案）について

伊藤 久美子	<p>青色防犯パトロール車はよく見かけますが、更なる拡充に期待しています。          青色防犯パトロールの車両で防犯パトロールをしてくださっているのを見ると、当然、抑止力にはなっていると思いますし、もう少し遅い時間帯まで中区内を巡回してもらえれば、効果も上がるかもしれません。</p>
太田 佳世	<p>青色防犯パトロール車はとても良い取り組みだと思うので、継続してもらいたいです。          私自身も乗ったことがあります。青パトの活動時間帯が若い世代の人が協力することが難しく、担ってくれている方の多くが高齢化してきており、継続が難しいことを実感しています。</p> <p>学生さんが有償ボランティアとして参加するシステムはとても良いと思うのですが、地域の方も同じく有償ボランティア扱いで募ることはできないのでしょうか…          有償ボランティアとしてならば、普段お仕事をされている人も少し時間のある時に地域のことに協力できるかもという意識が芽生えるのでは…</p> <p>若い子育て世代の人が、例えば親子で青パトに乗って地域を見回るなどの取り組みがあると、子どもさんが大きくなってからも自分が乗ったことがあることで青パトへの関心が湧きますし、そこから地域の道や危ない箇所への意識も高まる。          そして、保護者の人も地域への関心が高まり、自治会加入への関心にも繋がるのではないかと…と思います。</p> <p>大学生さんのボランティアが地域活動に触れて知る機会ができることはとても素敵なことだと思いますが、地域の若い世代を巻き込む方法も一緒に考えていってもらえると良いと思います。</p>
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自転車で地域を回るのも、大学生に運転をしてもらうのが難しい、車両だと顔が見えないといった問題が解決でき、よいのではないかと。</li> <li>・ 青色防犯パトロール活動に従事する方については、お揃いのベストや腕章など、一目見て、それに従事していることがわかるようにすることが大事だと思う。</li> <li>・ 活動者に対するボランティア保険など、事故などにあった場合の補償についてはしっかりと制度設計してあげてほしい。</li> </ul>
澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パトロール事業をもっと多くの方に知ってもらうためのポスターやお知らせをする、グッズなどを作る。</li> <li>・ 地域の方に見守りの協力をお願いする。</li> </ul>



<p>静 又三</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青色防犯パトロール活動はとても良い取組だと思う。</li> <li>・ 問題点として担い手の高齢化が進んでいるというのは地域でも認識している。その解決に役立つというのであれば、是非拡充してほしい。</li> <li>・ 市から活動距離等に応じて補助金ももらっているが、保険料など金銭面での負担も大きい。</li> <li>・ 直近で起こった事案や気を付けることなどをスピーカーで流しながらパトロールするのもよい。</li> <li>・ 福田校区では学校に新しく着任した先生に、地域を知って、覚えてもらうということも含め参加してもらっている。</li> <li>・ 青色防犯パトロール活動中に事故などが起こると大変大きな問題となるため、運転者については（人によって認知能力や運転のスキルなどは異なるが）一定の年齢制限などをきちんと決めたほうがよいのではないか。</li> </ul>
<p>中辻 さつ子</p>	<p>私の校区では、日曜日、金曜日の週2回乗車で、自治会・各種団体が輪番制で乗車しています。以前は、朝・昼・夜と日に3度乗車していましたが、現在は、夜は暗くて危ないということもあり、朝と昼の2度になっています。防犯のことを考えると夜も活動すべきだと思いますが、やはり回られている方の安全安心がまず一番大事です。私も、ボランティア部として月1回は乗車し、地域の安全に貢献していきたいと考えています。</p>
<p>藤田 浩子</p>	<p>青パトは乗車していたので、状況はよく分かっています。      大学生ボランティアが参加してくれることで、地域担当者の負担軽減にもなりますし、地域住民と大学生の交流にも繋がるので、とても良いと思います。      小学生は青パトが大好きでよく手を振ってくれます。ですから、大学生が地域見回りに参加してくれることを小学校で紹介してみるのも良いかと思います。      子どもたちの口コミは親にも届きますし、結果として広く周知されるかもしれません。</p>

松居 勇	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生（若者）ネットワークの結成 大阪公立大学のみならず、区内の高校や地元の若者等とも連携しながら、防犯活動に参画する。先述のマスコットキャラクターのイベント時のアテンド等もこのメンバーで行えたらいいですね。 （参考）堺区学生ボランティア「私たちも見まもり隊コネクト」 <a href="http://www.info.police.pref.osaka.jp/ps/sakai/1007732/1005031/index.html">http://www.info.police.pref.osaka.jp/ps/sakai/1007732/1005031/index.html</a></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校への出前授業 ただ単に青パトを走らせるだけでは、どんな人がやっているのか顔が見えず親近感がわかない。担当する校区の小学校で防犯に関する出前授業を警察と連携して行い、児童への直接的な注意喚起や学生のお披露目（「これからこの地域は私たちが一緒に守ります！」など宣言）を行ったうえで、防犯パトロールを開始する。 （参考）V-station「大阪府警察「サイバー防犯教室」に協力しました」 <a href="https://www.omu.ac.jp/volunteer/info/act_report/entry-13491.html">https://www.omu.ac.jp/volunteer/info/act_report/entry-13491.html</a></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもパトロール隊の協力 パトカーに乗ってみたい子どもは多いのではないだろうか？ 地元の子どものも同乗して、子どもの声でアナウンスしながら巡回すれば印象に残りやすくなるように思われる。守られるばかりではなく、子ども自身も防犯活動の当事者として参画できるようにする。子どもが行う防犯活動のサポートという側面も備われれば、学生の参加意欲も向上するような気がする。 パトカーに先述のマスコットキャラクターを乗せて走らせるのも面白いかもしれませんね。青パトが通るだけで子どもに喜んでもらえるかもしれない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマソングをつくる 青パトが走っていても、直接目にしないと記憶には残らない。中区オリジナルの防犯テーマソングをつくり、青パトを走らせながら（騒音にならない程度に）放送し、視覚だけでなく聴覚にも訴えかけながら巡回する。「雪やこんこ」と流しながら灯油販売しているようなやつのイメージです。その曲が聴こえただけで「あ、来たな（パトロールしているな=このまちは守られている）」と感じられたらいいですね。</li> </ul>
森田 裕之	<p>青色防犯パトロール活動の実施前後の数値など客観的な数値での有用性を示す必要がある。安心感は客観的なデータから生み出される。</p> <p>拡充事業の実施に際し、現在どの程度の活動をしているのか、どういった時間帯・ルートでの運行が有効かなどの分析が必要。</p> <p>運転に関しては、何かあったときに怖いので大学生は助手席での補助と何か別の形での協力などを行う方が良い。</p>

小倉 弓果	<p>青色防犯パトロールについてはあまりよく知らなかった。 ボランティアで来てもらった大学生に、活動後に普段使っているSNSで投稿してもらえると継続的に投稿ができるし、活動内容や人それぞれの感想も知ってもらえるのでいいのではないか。</p>
桂 恵輔	<p>詳細については詳しく知らず、この資料を見てそういう活動だったんだという感想。 不審者よりも不良青少年を見張っていると思っていた。 目的が十分に周知されていないため、直接的な目の前の犯罪を止めるには役立つが、抑止力としては乏しいのではないか。</p>
高田 彩加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青色防犯パトロール活動そのものについては、私が住んでいる地域でも行っている活動なので知っていたが、中区でも多くの活動が行われていることは知らなかった。</li> <li>・ 青色パトロール活動は、地域で防犯活動が行われているという安心感を住民に与えられると思うが、実際にどれほどの犯罪抑止効果があるのかという点においては疑問がある。</li> <li>・ また、地域のボランティアの方々が活動を行っているというイメージだが、実際にその方々のことを知る機会がないので、どのような人がパトロール活動しているのか、パトロール活動といっても具体的に何をしているのか、住民にもあまり知られていないと思う。</li> <li>・ 大学生がパトロール活動を行っている事例は他県でも見られるようだが、今回の資料を見るまで大学生がパトロール活動を行っているということは聞いたことがなかったもので、実際に行っていく際には、より周知する必要があると思う。周知の方法としては、中区の広報誌の活用、担当する校区の小学校等へのチラシの配布などが考えられる。</li> <li>・ また、大学生が主体となって、防犯に関する動画の作成を行って地域や学校の防犯教室などで活用したり、小学校のあいさつ運動に参加したりすることにより、大学生と地域の関係をより密にしていくのが良いと思う。他にも、すでに行っている防犯や交通安全の啓発活動に大学生が参加し、防犯クイズなど子どもから高齢者まで防犯について知識を深められるものを作成するとともに、防犯パトロールのことを周知していくことも効果的ではないかと考える。</li> </ul>

<p>陳代 修平</p>	<p>防犯パトロールは大阪市でもあるので、存在は知っていたのですが、あまり身近ではなく「走ってるな～」くらいにしか思っていませんでした。また、地域の方が運転しているとも知りませんでした。</p> <p>なので、そういう観点で行くと、ちゃんと広報活動をしないと、大学生が乗車しても活動が増えるという以上には変わらないような気がします。</p> <p>個人的には、資料の効果で挙げられている「地域の防犯意識の高揚」「見守られている」という安心感の醸成につながる」という部分は、あまり感じたことはないです。むしろ顔が見えている見守り隊の方のほうが身近で、安心に感じていました。</p> <p>意味がすごくあると思うのですが、こちらも大学生が関わることで現状大きく良くなるとは思えないという意見です。</p> <p>顔が見えるという観点を重視するなら、車ではなく自転車で回るとかもありかなと思いますが、担い手の年齢層などや機動性などを考えると自転車も一長一短なのかもしれません。</p>
<p>山口 睦季</p>	<p>私が住む町でも行なわれており、小学生が不審者に遭遇した際には、自宅に着くよりも前に巡回中の青パトの方に報告できたことによって、迅速に容疑者を捕獲することができた、という話も伺っています。</p> <p>ですので、是非実現していただければと思います。実際に区を走るときには、窓から「こんにちは」などと声をかけるのが良いかと思います。もし何か事件が起こったときには、普段からよく見かける方であれば助けを求めやすいかと思います。</p>
<p>脇田 利奈</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青色防犯パトロール活動を知っていますか</li> </ul> <p>→この車を見かけたことはありましたが、活動名は初めて知りました。また、地域の方が行っているということも初めて知りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この活動を有効的に行うために</li> </ul> <p>→学生がよく利用する飲食店や、大学内で、宣伝を行う、また（抽象的な案ですが）中区にあるお店と連携して地域の横のつながりを増やしたり、地域活性化とも繋がられるのではないかと思いました。</p>